

# 「エアリーフローラ」の水稲経営体への普及拡大

中央普及支援センター



水稲育苗箱で育つエアリーフローラ



現地検討会の様子

本県が開発したフリージア「エアリーフローラ」は、現在、生産者・関係団体が一致協力し、平成29年度春に向けて100万本の生産目標を掲げ生産振興に取り組んでいます。本年度は既存の花き農家を中心に42戸、約30万球の球根が定植されていますが、今後のさらなる生産拡大に向けて、新規栽培者の発掘が大きな課題です。

このため当センターでは、これまで花の栽培経験が全くない水稲農家を対象に、水稲育苗ハウスを活用した栽培を普及させたいと考えています。水稲単作では、特に冬期間の収益源がないため、複合品目としてエアリーフローラを導入するメリットは十分あると考えています。

水稲育苗ハウスで栽培する場合、水稲苗を4月初旬から搬入するため、3月末までにはエアリーフローラの全作業を終了させなければなりません。この課題を解決するため、現在、農業試験場では水稲育苗箱を使ったボックス栽培法を研究しており、概ね2年後の技術確立を目指しています。当センターでは、この栽培法を速やかに現地へ普及させて水稲農家の経営に役立てたいと考え、広く農家の皆さんに紹介する活動を展開しています。

その一環として、農業試験場、各農林総合事務所と連携し、県内5カ所で水稲育苗箱を使った栽培展示ほを設置しました。これら展示ほは、農家同士で栽培状況を確認する現地検討会において紹介した他、農業試験場で開催中の「エアリーフローラトライアルセミナー」においても紹介し、受講者にこの栽培法のメリットを説明しています。いずれも水稲農家の関心は高く、技術確立と同時に急速に普及する手応えを感じています。

問い合わせ先：農林総合研究センター農業試験場 中央普及支援センター  
(076-257-9150)